■北海学園大と北海道大が白星発進。第５０回道学生選手権が開幕

半世紀の節目を迎えた北海道学生アメリカンフットボール選手権が８月２５日、札幌市円山競技場で開幕し、第１節は１部の２試合を行った。北海学園大（前年２位）が釧路公立大（同４位）を７－６で下し、北海道大（同優勝）も２年ぶりに１部に復帰した東京農業大（網走）に３４－７で勝利。昨年の２強が順当に白星発進した。両試合は、第５１回肢体不自由児者チャリティ「ポテトボウル」として行われた。第２節は９月１日、札幌学院大グラウンド（江別市）で２部の札幌学院大－北海道科学大、１部の帯広畜産大－室蘭工業大の２試合を行う。

第１試合は、北海学園大が試合開始のプレーでＲＢ高杉武生（４年、浦河高）が８８ヤードのキックオフリターンＴＤを決め、トライのキックも決まって７－０と先制。その後は両チームの守備合戦になった。釧路公立大は第４Ｑ６分、ＱＢ中西亮太（３年、旭川商業高）からＷＲ高坂駿佑（４年、滝川西高）への２９ヤードＴＤパスで６－７と追い上げたが、トライのキックを失敗。北海学園大の逃げ切りを許した。

北海学園大の高木幸樹ＨＣは「たまたま勝てた」と辛勝を振り返り、「次戦に向けてラインを立て直す。ＤＢのタックルミスも無くす」と修正点を挙げた。決勝ＴＤのＲＢ高杉は「練習通りのリターンだった」と喜びながら「次の試合は圧倒したい」と決意した。一方、釧路公立大の伊藤祐介コーチは「あと少しだった。守備はゲームプラン通り。開幕戦だが、決勝のつもりで臨んだ。選手は良いプレーをした」と、前年に続く惜敗を残念がった。ＴＤパスのＱＢ中西も「先輩を信じて投げた。次の北海道大戦も練習してきたことをやるだけ」と２強崩しを誓った。

第２試合は、北海道大が第１Ｑ３分、ＲＢ下島圭太郎（２年、神奈川・多摩高）の４０ヤードＴＤランで先制すると、第２ＱにはＫ雨宮暖（１年、山梨・甲府西高）の２本のＦＧで加点。後半はＱＢ山本康介（４年、奈良・奈良学園登美ケ丘高）が見せた。第３Ｑ３分に自らの５ヤードラン、第４ＱにはＴＥ篠田恵亮（１年、大阪・生野高）へ４８ヤード、ＷＲ田中夏暉（４年、東京・渋谷教育学園渋谷高）へ５５ヤードのＴＤパスを投じて駄目を押した。東京農業大は第４Ｑ１０分、今季から先発するＱＢ関叶翔（２年、茨城・日立北高）からＷＲ浅川夏暉（２年、東京・安田学園高）への５６ヤードＴＤパスで追い上げたが、反撃が遅すぎた。

北海道大の樋之本彬ＨＣは「ＲＢ下島はエース候補。もう少し頑張ってほしい」と期待を込めながら「守備チームがボールを狙っていない」と苦言も。「次戦の室蘭工業大戦は地力を発揮して圧倒してほしい」と選手の一層の奮起を求めた。先発ＲＢの下島は「先輩たちが道を開いてくれ、自分は走るだけだった。素早いカットとブロックを使う走りに自信がある」と、次戦でも活躍を宣言した。一方、東京農業大の神田健心コーチは「２年生ホットラインに助けられている。思ったより戦えた」と２年ぶりの１部リーグに手ごたえを強調し、ＱＢ関も「目標のＴＤ１本が取れた。次の試合は、相手守備に好きにさせない攻撃を作りたい」と意欲を見せた。（塚田博広報委員）